

菰月頻風樓日録

首卷

特別

14

1919

516



A ledger page with a blue border and 10 vertical columns. The columns are of varying widths, with the two outermost columns being the widest. There is a small blue mark on the left edge of the page.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

A blank page with a light beige background and some faint smudges.

38- 9302

菰月籟風樓日録

自序

余曾テ日記ノ必用ヲ感シ橋場ノ僑居ニ於テ之
シテ劄ム題シテ菰月籟風樓日録ト云フ後數月
之シテ癸ス而シテ十六年ニ至リ再々之シテ
劄ム高田ニ赴テ又終ニ之シテ癸ス昨年又感ス
ル所アリ三々之シテ劄メントス然レモ思テ
ク日記ヲ保續スル能ハサル者ハ偏ニ記事ノ精
ヲ欲スルニ由ル只々夫レ精ヲ欲ス故ニ終ニ怠
ヲ振子ク寧口粗ナルモ久續スルノ優ルニ荒カ

スト印刷局製スル所ノ懷中日記ヲ購フテ客年
十二月十三日初メテ筆ヲ起ル再未怠ラス今日
ニ至ルヲ得タリ然ルニ去月小野梓君ノ逝去
遭ヒ君カ傳ヲ編セントル遺族ニ就テ資料ヲ求
ムルニ君カ手録ニ係ル留客翁日記六卷アリ明
治十二年ニ起リテ君カ逝去ノ前月ニ至ル記事
明瞭公私細大ノ事漏ラスナリ密ナ漢文ヲ以テ
筆ニ州々加フルニ君カ隨時心中ニ浮フノ議論
ヲ以テス由テ編傳ノ際大ニ便利ヲ覺ヘリ以之
亦大ニ感激スル所アリ余今微賤天下ノ休戚

ニ関スル所ナシト虽氏春秋尚ホ富ニ前途甚ク
遠シ爲ンゾ自ラ棄ツ可ケンヤ小野君ニシテ日
記ナリンバ人誰シカ君カ功烈ヲ知ラシヤ日記
失フ可ラス於是乎懷中日記ヲ瘞シ別ニ日録ヲ
製シ舊題ヲ冠シ茲月蘋風樓日録ト云クニ自ラ
戒メテ之レヲ瘞セサシムララ期ス

明治十九年二月十七日

春城學人誌



菰月蘋風樓日録

首卷

此卷明治十八年十二月十三日ニ始マリ明治十九年 月 日ニ畢ル

十八年十二月十三日ヨリ十九年二月十七日ニ至ルノ日記ハ懷中日記ヨリ騰寫セルモノニ係ル

明治十八年日録

○

十二月十三日 晴、信濃学生懇親會負、招キ、
應シ築土松風亭ニ一席ノ演説ヲ為ス午後高田
天野ト野村文夫ヲ團々社ニ訪ヒ中央學術雜誌
印刷賣捌依頼ヲ解カンテヲ談ス局ヲ統ハスナ
六日再議ヲ約シテ歸ル三時富士見町富士見軒
ニ校友會開會ノ宴ヲ開リ蓋シ校友會ハ東京專
門學校得業生ノ為メニ設リル者ニシテ益々親
睦ヲ因フニ學校ト永リ關係ヲ完フセシメンガ

為ノナリ曩キ田原余ニ語ルニ此會ヲ設リ
ルノ必用ヲ以テス余又夕平素之ヲ思フ遂ニ
相議シテ方案數条ヲ定メ今日發表ノ運ニ至
リタルナリ會スル者講師議員得業生四十餘
名酒杯ノ間演說沸クカ如ク余モ又夕一場ノ
演說ヲ為ス帰路小川ヲ訪ヒ深更家ニ還ル
十四日 昇校書生ニ課ス家ニ帰り書ヲ桐原捨
三ニ投ス蓋シ中央學術雜誌印刷ノ事ヲ商議
スルナリ

十五日 曠課ノ日校ニ昇ラス竹村中村来川貸

幣論ノ講義ヲ受リ

十六日 昇校書生ニ課ス

十七日 昇校書生ニ課ス

十八日 風邪校ニ昇ラス尽日燼ヲ擁シテ監獄
原論ヲ校ス

十九日 昇校書生ニ課ス此日寒凜大ニ加ハル
午後三時遂ニ藤六ヲ飛ハス満街須史銀世界
ト化ス初夜地震ヲ此日在岡山田一ノ書ニ接
ス冬期學暇ヲトシテ靜岡ニ遊説セニテラ勸
ムルナリ

廿日 休暇日、午前政学研究会、臨ムテ一席ノ
演説ヲ為スノ約アリ感冒全リ愈ス咽喉傷ム
テ劇シリ発声ニ便ナラス遂ニ使テ飛ハシテ
臨席ヲ謝ス坪内兄ヲ訪フテ事ヲ話ス橘兄未
リ会ス遂ニ橘兄ヲ伴フテ上野蓮塘ニ散策ス
道路泥濘深クシテ漫步ニ便ナラス蓬萊亭ニ
一酌ス一醉大ニ咽喉快ク覺ユ初夜家ニ還リ
テ温卧ス

廿一日 咽喉未ク快ク覺ヘス且ツ雜誌條約ノ
事迫ルヲ以テ之レヲ處理セシメガ為メ校ニ昇
ラス桐原ヲ三益社ニ訪フ遇ハス岡山ヲ訪ヒ
再々ニ桐原ヲ訪フ又々遇ハス車ヲ飛ハシテ
学校ニ到リ雜誌改良ノ主意書ヲ筆ス帰路高
田ヲ訪フ遇ハス坪内橘二兄ト木下ヲ訪ヒ事
ヲ話ス

廿二日 午前桐原ヲ三益社ニ訪フ遇ハス枝元
ニ會シ事ヲ話シ桐原ニ傳シム帰路岡田ヲ團
々社ニ訪ヒ改正條約案ヲ示ス午後三時偕樂
園ニ日本経済会ノ忘年会ヲ開リ余又々赴ク
酣醉帰路小川ヲ訪ヒ心事ヲ話シ家ニ還ル今

夜山田一兄ノ電報ニ接ス

念三日 校ニ昇リ生徒ニ課ス午後大隈校主自
即ニ忘年会ヲ開キ議員講師ヲ饗食ス余又此
前島北島沼川等諸人會ス席上内閣更迭ノ内
情ヲ聞リ初更家ニ帰リ小川学友社團々社等
ノ書ニ接ス

念四 校ニ昇リ書生ニ課ス齋藤和太郎靜岡ヨ
リ来リ余ヲ學校ニ訪フ齋藤ハ政治學得業生
ニシテ現ニ靜岡大務新聞ノ主筆ナリ余及ヒ高
田ノ遊岡ヲ促サシカ為メ殊ニ来セルナリ放

課後相伴フテ高田ヲ訪フ歎談頃刻遂ニ遊岡
ヲ説ス本日掌棟冬期及學暇ヲ与フ

念五 午前岡山ヲ訪フテ遊岡ノ事ヲ告ケント
ス過ハス演題ヲ筆シテ山一ニ送り蓋シ遊岡
ノ際演説ノ料ニ供センガ為メナリ午後一時
學校忘年会ヲ二州榎青柳樓ニ張ル會スル者
六十餘名初更高田ト相携テ帰ル歸路書肆ニ
入り醉古堂掃帚一部ヲ購フ

念六 午後天野ヲ訪ヒ事ヲ話ス田原来リ會ス
共リル、前夕懇親會席上股野ノ亡状ヲ以テ

此處分法ヲ判フ高田ヲ待テ決セシトス来ラ
ス意見ヲ遺シテ去ル六時桐原ヲ三益社ニ訪
ヒ雜誌ノ事ヲ話ス

廿七日 高田ヲ訪フテ團々社契約ノ事ヲ話セ
ントス過ハス天野ヲ訪ヒ相伴フテ團々社ニ
到リ野村岡田ト契約ノ事ヲ談シ遂ニ條約ヲ
締結ス夜間高田来リ訪フ

念八 在家武市彰一来リ訪フ賜ルニ阿州徳島
産ノ砂糖ヲ以テス三益社契約案ヲ筆ス
念九 晝間街頭ニ漫歩ス晚州高田天野ト上塾

蓬萊亭ニ登リ桐原ヲ招子キ置酒條約ヲ結了
ス

三十日 朝香坂ヲ訪ヒ事ヲ話ス晝日家ニ在リ
監獄原論ヲ校ス

三十一日 家人ト迎歳ノ備ヲカス晚州田原ヲ
訪ヒ事ヲ話ス還家一浴家人ヲト送年ノ杯ヲ
舉リ今夜親姻故旧ニ賀状ヲ發ス

明治十九年日録

○

一月一日 曉起家人ト獻酬熊倉老ヲ四谷ニ訪
レ家大人ヲ番町ニ訪フ帰寓後賀状ニ接ス蓋
シ例年府下祝賀スル所百處ニ過リ而シテ明
且靜岡ニ赴クノ約アリ行李ヲ整フニ忙ハシ
故ニ癢ス

二日 午前八時高田兄ヲ待テ發セシトテ結束
待ツテ數時ニシテ來ラス車ヲ飛ハシテ新橋
停車場ニ至ル十一時兄來ル^余告リルニ昨夜云

々ノ事アリ為メ、定刻来ルヲ得ルト余聞
テ愕然即午双火車、登以神奈河、至ル直午
ニ馬車ヲ余レテ大磯ニ抵リテ嘯シ夕陽小田
原ニ達シ小伊勢屋ニ投ス此夜雜誌改良ノ廣
告案ヲ續等々筆シテ天野櫛崎ニ投ス

三日 拂曉籃輿ヲ雇フテ函山ヲ踰ユ寒風凜烈
骨ヲ刺シ毛衣絹帛猶ホ勝ヘス漸ヤリニシテ
湖水ニ達シ一茶店ニ憩フテ一酌僅カニ寒ヲ
防セリ咳嗽甚シク感冒ノ氣アリ午後更テ
籃輿ニ上リテ登ス晚間迄分甲州舎ニ投ス疲

勞甚シリ浴後直ニ寝ニ就ク

四日 曉起腕車ヲ僦フテ興津ニ抵リ一碧樓ニ
登リ三保田子ノ风光ヲ馳眺シテ一酌ス感冒
益々甚シク前年此地ヲ經過セル時ノ快想ア
ラズ奥津鮑数尾ヲ購フテ腕車再々ニ登ス小
寺田ニ抵シハ一儉父アリ傘カ車ヲ遮リ一禮
シテ伺フテ曰リ諸君ハ東京ノ廣客ニアラス
ヤ山田先生諸君ヲ待テ此地ニ在リト一茶店
ニ入ル山田兄迎テ余等ヲ階上ニ導リ此辺ノ
有志者四五輩来リ会ス一酌シテ共ニ静岡ニ

赴ムキ大萬舎、投ス岸小三郎余等、先ツ
一日来リテ同舎、在リ今夜大務新聞社員ト
芙蓉楼、飲ム感冒益々甚レキヲ覺ユ

五日 杏某去見某等余等ヲ旅寓、訪フ午後六
時演説會ヲ櫻川座ニ開リ余、慶世ノ要ハ資格
ヲ辨スル、在リテ演ス會スル者千二百餘人
蓋シ未嘗有ノ盛會ナリト聞リ

六日 朝食了リ高田兄ト求友亭ニ登ル求友亭
ハ割烹店ナリ余等ノ旅舎、在ルヤ来客織
ルガ如リニシテ寸暇ヲ得ス今之レヲ避ケタ

ルハ學術雜誌ノ草稿ヲ筆セシガ為メナリ午
時齋藤鈴木等来リ訪フ相携テ街上ヲ漫步シ
遂ニ仙源ニ赴ムテ留旅舎ニ歸ル今夜官民懇
親會ヲ芙蓉楼ニ開リ余等又夕共ル會スル者
百三十名余會主ノ需、應シテ一場ノ演説ヲ
為ス帰路山田兄ト一店ニ入り飲食シ共ニ心
事ヲ話ル旅舎ニ歸レバ岸獨り暮シ在リ窓
無聊ニ堪ス遂ニ相携テ双街ニ遊ブ

七日 山田高田兩兄ト石部村ノ温泉ニ到ル温
泉群岡ヲ距ル二里許海ニ瀕シテ眺望佳ナリ

蓋し未客ヲ避ケ共ニ政治上ノ事ヲ閑談セシ
ト欲スルナリ一浴終リテ杯ヲ呼ビ閑話數刻
ヲ移シテ帰ル今夜大務新聞社主佐倉常民前
藤坂井等ト求友亭ニ飲ム

八日 前日懇親會場ニ演説セルヲ業シテ大務
新聞ニ投ス午後山田ヲ訪ヒ共ニ心事ヲ閑談
ス今夜亦某ノ招ニ應ジ芙蓉樓ニ飲ム会スル
者四六七輩皆テ静岡屈指ノ高賈ナリ

九日 晴今曉静岡ヲ発ス岸車アリテ止マル山
田斎藤三島ノ政談演説會ニ赴カリノ約アリ

共ニ行リ終リ坂井又送リテ金付驛端ニ来ル
路ニ清見寺ヲ過リ諸人入りテ見コトヲ欲ス
乃々一覽シ一聖樓ニ午哺シ六時三島ニ達シ
相模屋ニ投ス有志者兩三輩来リ訪フ晚餐終
リ山田高田兩ニ先ト蓬萊亭ニ飲ミ別ヲ告リ
泥酔遂ニ旅舎ニ帰ル能ハス

十日 拂曉籃輿ヲ雇フテ発ス函山ノ氣候前日
ノ如ク凜寒ナラス且ツ輿丁脚徒ニシテ能ク
坂路ヲ走ル感冒初メテ快ク覺ユ六時州函嶺
ヲ越ヘ馬車神奈川ニ至リ夜十一時家ニ還ル

賀状ニ接ス一酌寝ニ就リ

十一日 雜誌ノ事ヲ處理セシガカノ校ニ昇ラ
ス午前家ニ在リ雜誌ノ稿ヲ草ス終リテ天野
ヲ訪ヒ雜誌ノ事ヲ處ス小川ヲ訪フテ晚間家
ニ還ル

十二日 休暇日岡山ヲ訪ヒ静岡行ヲ託シ山田
元ノ事ヲ語ル忽チ小野梓君ノ訃ニ接ス警愕
措リ所ヲ知ラス岡山兄ト後事ヲ訣リ山田兄
ニ書ヲ授シテ之レヲ報ス

十三日 昇校書生ノ課ス信書ヲ草シテ小野君
ノ訃ヲ諸友ニ報ス且ツ高田等ト葬送ノ事ヲ
商議ス小川ヲ訪ヒ小野君餘烈ヲ發揚セシメ議
十四日 小野君葬式ノ為メ本日校ヲ閉ツ午後
二時出棺谷中天王寺ニ葬ル親故舊姻縁送ル
者千餘人埋葬ノ際悵惻悲ニ堪ス墓地ヲ去
ル能ハス会葬者既ニ去リテ余岡山小川高田
ハ止マル帰路相携テ上野島八十ハ到リ小野
君ノ芳烈ヲ發揚スルノ策ヲ議ス遂ニ遺稿ヲ
編スルヲ傳フ編纂スルヲ石碑ヲ建設スルヲ
等ニ決ス即チ席上信書ヲ草シテ山一兄ニ報

ス

十五日 校：昇り書生：課ス家：遷リテ草茅
危言ヲ筆ス蓋シ頃日ノ時事：感スル所アリ
我素望ヲ提シテ政府及ヒ民間、質サントス
ルナリ

十六日 校：昇り書生：課ス草茅危言ヲ山一
兄：寄セ大務新聞：載セシテ托入文稿通
シテ十篇載セテ春城論稿：在リ今夜小川岡
山高田ト小野義真ヲ榎場ニ訪ヒ榎君ノ事ヲ
議スルノ約アリ五時岡山ヲ英吉利法律学校

ニ訪フ既：シテ小川来ル而シテ高田来ラズ
刻ノ過キンテク恐シシ言ヲ高田ニ遺シ車ヲ
飛ハシテ榎場ノ水莊ニ義真ヲ訪フ義真門ヲ
開テ余等ノ到ルヲ待リ榎君ノ死ヲ吊シ且ツ
君在世ノ事歴ヲ談シ將來ヲ議ス義真大ニ覺
ル所アリ厚リ余等ニ禮ス時正リニ十一時共
ニ辞シテ今夜月将ハ：明ニ墨江ニ映シテ激
灑銀ヲ漂ハス余顧ミテ歎シテ嗚呼吾人カ初
メ改進黨ヲ樹立スルヤ深夜此處ヲ往來シテ
小野君ト堂事ヲ談セルヲ既ニ往昔ノ事ニ屬

僅カ、三年前、在り月也ハ四、由テ明カ、
水声ハ其音ヲ改メス而シテ人ハ既、無シ既
スル、勝ユ可ケシヤ依細去ル能ハサル者久
シ既、シテ家、還レバ既、十二時ヲ過ソ一
酌寒ヲ獲シテ寝、就リ

十七日 日曜家、在リ死生之理ヲ筆シテル雜
誌、登載センガ為メナリ午後信濃學生親睦
會、赴リ家、還リ山一兄ヨリ、書、接ス蓋
シ寄臨渡會、書ナリ蓋シハ野君ノ死、関シ
政族ヲ激セントスルナリ

十八日 校、昇リ書生、課ス

十九日 朝食前香坂ヲ訪ヒ事ヲ話ス校、昇リ
書生、課ス放課後ハ川天野佐藤悞等ヲ訪フ
家、還リ山一兄ノ書、接ス何行東京、来リ
事ヲ議センナリナリ

念日 校、昇リ書生、課ス改良雜誌印刷成ル
裁体在ナラズ世、公、ス可ク知遊、高田ト
議シ發賣ヲ止メテ更テ、改良ヲ加ヘンナリ
議ス相伴フテ天野ヲ訪ヒ意見ヲ陳ス天野議
ス事ヲ飛ハシテ桐原ヲ訪フ逢ハス家、還リ

前川亀次郎ノ書ニ接ス贈ルニ代カ若キ術業
談ヲ以テス之レヲ中央學術雜誌ニ登録セシ
テヲ請フナリ

念一日 雜誌印刷談判ノ為メ校ニ昇ラズ桐原
ヲ仲後士町ニ訪フ過ハス三益社ニ訪フ亦夕
過ハス手塚ニ面シ談判ノ要領ヲ話ス夜ニ入
リ典ニ桐原ヲ訪ハシテ謝シ帰ル今夜桐原
ニ會シテ談判ヲ開リ半ハ成リテ家ニ還ル山
一兄ハ電音ニ接ス

念二日 校ニ昇リ書生ニ課ス放課後高田ヲ訪

ニ雜誌原稿ヲ集シ且ツ將來雜誌事務ノ整理
業ヲ定ム余ニ專ラ任センテヲ請フ議ス今夜
高田ヲ伴フテ桐原ヲ訪フノ約アリ夜深フシ
テ果サス

念三日 校ニ昇リ書生ニ課ス本日午後二時横
濱學術演説會ニ臨ムノ約アリ放課後家ニ還
リ結束行カントス過々小川ノ來書ヲ得先ツ
訪フ小野君傳ノ事ヲ談ス頃刻ニシテ停車場
ニ赴カントス三益社ヲ過キ桐原ヲ訪フ過ハ
ス手塚ヲ桐原ニ訪フ又夕過ハス雜誌談判ノ

結局急リ要シテ其、在ラ不思フ、遷延セハ
或ハ事ヲ誤ラシ遂、車ヲ飛ハシテ桐原ヲ伴
徒士町、訪フ又リ過ハス時既、夕陽電信ヲ
横濱ニ通シテ遂、臨席ヲ辞ス

念四日 家、在リ雜誌ノ稿ヲ編輯ス榑崎来リ
助リ桐原手塚来リ雜誌印刷ノ談判ノ旨ヲ結
グ

廿五日 校、昇書生、課ス放課後高田ヲ訪ヒ
雜誌印刷條約ノ事ヲ話ス還家中村弼来リテ
帰京ヲ報ス

念六 雜誌原稿ヲ三益社、送ル午後昇校榑崎
ト雜誌ノ事ヲ處ス遂、三益社、到リ雜誌發
刊ノ順序ヲ商量ス高田来リ託ス坪内来リ小
説ノ資料ヲ持フ

念七 昇校課書生坪内来リ小説ノ資料ヲ持フ
山一ニ電音ヲ通シ来京ヲ促ス小川ヲ訪ヒ小
野荒傳ノ事ヲ談ス過リ山下保馬來ル材料ヲ
余、送ルコトヲ約ス今夜榑橋ニ憲法會議アリ
小川ヲ辞シテ赴ク臨席員少數ニシテ開會ス
ル能ハス

念八日 昇校課書生山下小野君傳ノ資料ヲ送
ル午時資料調査ノ為メ校ヲ辞シテ家ニ還ル
青地雄太郎山一ノ書ヲ齎ラシテ静岡ヨリ来
リ余ニ与テ披展文字激切余カ怠慢ヲ咎ム事
当ラサル者アリト虽氏余先ガ心切平素ト亦
ニ異ナラサルニ服ス高田ヲ訪フ過ハス田原
ノ書ニ接ス晚河田原来リ校事ヲ議ス今夜深
更燈ヲ剔リテ宗鷗渡会員書ヲ筆ス蓋シ會員
ヲ會シテ激切大ニ政族ノ事ヲ論セント欲ス
ルナリ此日政学研究会ニ臨ムノ約アリ托シ

以テ辞ス

念九日 在家宗鷗渡会員書ヲ筆シテ午後東
洋傳ノ資料ヲ調査ス今夜一時州ヲ叩リ者ア
リ州ヶバ即ケ山一先静岡ヨリ来ルナリ欣然
迎テ置酒宴着ヲ賀シ族事ヲ談シ遂ニ天明ニ
到ル

卅日 今朝車ヲ飛ハシテ小川天野岡山尋ヲ訪
ヒ山一ノ来京ヲ報シ且ツ明日ヲトシテ余カ
家ニ会シ大ニ政族ノ事ヲ議セントテ約ス書
ラ山下高田ニ投ス午後高田来リ訪フ此日先

即天皇際枕山扁欵星巖ノ扇面ヲ購フ

卅一日 日曜日家ニ在リ夜未降雪甚しく小川

高田天野岡山等ノ来ラサラントシテ患フ既ニ

シテ小高天雪ヲ踏ムテ来ル欵談時ヲ移ス而

シテ岡山病ヲ以テ来ル能ハス政族ノ談ヲ聞

リテ得ス明日池の尾ニ再会セシテ約シテ

散ス

○

二月一日 前日ノ降雪尚ホ融セス本日学校ヲ

閉ツ故ニ校ニ昇ラス午前高田ヲ訪ヒ山一ノ

意ヲ傳テ子カ意見ヲ叩リ或ハ同スル者アリ

同セサル者アリ家ニ還シハ田原来リ山田ト

話ス土時車ヲ馳セテ池の尾ニ到ル小川既ニ

在リ既ニシテ高田山一岡山天野来リ会テ即

チ族事ヲ談論ス余寄臨渡会貞書ヲ朗讀ス衆

又各々意見ヲ述フ而シテ紛然決スル所ヲ知

ラズ夜將サレ三更ニ到ラントス終ニ一事ヲ

決ス向後臨渡會ヲ有形ノ組織ト為シ幹事一

人ヲ擧ケ毎月第一水曜日ニ開會族事ヲ商議

ス是レナリ余幹事ノ撰ニ當ル尚ホ三日神保

園に會せんトウ約して散る時、夜将ニ一時
山元ヲ伴フテ芳原に遊ブ

二日 曉天車ヲ飛ハシテ上禁ニ到リ一旗亭ニ
飲食シテ家ニ還ル書ヲ山下ニ投ス雜誌原稿
ヲ懸頓シテニ益社ニ送ル校ニ昇リ雜誌ノ事
ヲ慶ス家ニ還リ論學問之独立ヲ業ス蓋シ雜
誌ニ登載セシトスルナリ

三日 昇校課書生家ニ還リ一浴政族ト神保園
ニ會ス前會ノ議ヲ續^繼テ討論ス高田大ニ意ヲ
枉ルル所アリ岡山亦々敢テ執拗ヲ擅ニセズ

議大ニ整ヒ調停稍々行ハル、ヲ見ル嗚呼余
高田ヨリ帰リ政族ノ炯ニ調停ヲ行フナト
シテアラサルハナシ而シテ相會スレバ必ナ
ラズ異議紛然終ニ余カ意ヲ満ス者アラズ而
シテ今日初メテ調停ノ端ヲ開リ賀ス可キナ
リ十一時會ヲ散ス山一ト共ニ家ニ歸ル寒風
骨ニ徹ス一酌寢ニ就リ

四日 昇校課書生雜誌ノ事ヲ慶ス家ニ還リ山
田ト東洋傳ヲ校正ス傳全リ成ル携テ東洋館
ニ到リ之レヲ野義真ノ閱覽ニ供セシム手

塚ヲ訪フテ雜誌ノ事ヲ處ス遂ニ蓬萊亭ニ赴
リ山田ノ別ヲ送ランガガノヤリ政族及ヒ田
原坪内来リ会ス十時冬々酔ウ尽シテ帰ル
五日 宿醒神氣爽ナラズ校ニ昇ル能ハス石田
安来リ訪フ今夜山一静岡ニ帰ラントス酒ヲ
置テ別ヲ送ル今夜高田新聞足田書ヲ寄セテ
東洋君追悼法會ヲ開リテ報シ余カ祭文ヲ
ヲ促ス

六日 昇校課書生放課後高田ヲ訪ヒ雜誌ノ事
ヲ話ス初更家ニ帰ル細雨霏々衣ヲ湿ス遂ニ

覆盆ノ大雨トナル

七日 休日家ニ在リ祭文ヲ筆ス秋元来リ話ス
踵テ田原来リ訪ヒ三宅云々ノ事ヲ談ス家大
人来リ訪フ夜間本田信教来ル

八日 昇校課書生放課後田原ヲ伴フテ高田ヲ
訪ヒ大ニ學校改革ノ事ヲ議シ夜三時ニ至ル
遂ニ家ニ還ル能ハス田原ト高田ノ家ニ宿ス
九日 昇校雜誌ノ事ヲ處ス家ニ還リ改革案細
領ヲ筆シ了ル内藤於菟彦来リ訪ヒ心事ヲ話ス
今夜三宅高坪天田ト筆土松風亭ニ會シ討改

草案ヲ議ス衆皆十異見ナシ即々十時散ス

十日 晴昇校課書生午時校ヲ辞シ高田ヲ訪フ
テ改革案ヲ修正ス今夜雉橋ニ憲法會議アリ
高田ヲ伴フテ行リ少數ニシテ州會スル能ハ
ス帰路天野ヲ訪ヒ家ニ帰ル

十一日 紀元節家ニ在リ改革案ヲ筆寫シ祭文
ヲ筆シテ高田ノ久代足田ニ郵送ス宇尾野藤
七来リ訪フ

十二日 昇校課書生還家改革案ヲ筆寫シテ初
更ニ到ル

十三日 改革案ノ筆作終ラサルヲ以テ午前校
ヲ辞ス一時筆作終ル携テ校ニ昇リ高田等ニ
示ス書生ニ政治原論ヲ授ケテ帰ル路ニ前島
老ヲ訪ヒ改革案ヲ示シテ校主ニ致スノ外々
ラシメントス在ラス封書執事ニ致シテ家ニ
還ル

十四日 休日家ニ在リ専門学校講師書生石田
清来リ千葉縣會議決ニ對スル不服ノ建議ヲ
草セシテヲ托ス蓋シ千葉縣有志者ノ意ヲ傳
フルナリ諾シテ帰ス本田来リ心事ヲ話ス午

後田原ヲ訪フ遇ハス中原貞ヲ訪フヲ帰ル

十五日 昇校課書生

十六日 休日論学問之独立ヲ業ス此日天雪セ

ニトス寒凜骨ニ徹シ業ヲ執ル、慵ニ得所凌

烟ヲ携ヘ水道所ノ物ヲ贖ヒ遂ニ旗亭ニ登リ

一醉凌烟ト芳野世経ヲ大塚ニ訪ヒ墨子ヲ借

リテ帰ル

